

詠む広場

毎日歌壇

心して降りる石段梅雨湿り
水戸市 永井 弘子

夏帽子深くかぶりてひとり旅
前橋市 木下美樹枝

車内にはいつもの客や朝ぐもり
相模原市 はやし 央

シャコンヌに聴き入りひとり明易し
越谷市 安居院半樹

微笑みが箱につめられさくらんぼ
高知 渡辺 哲也

山国に星々近し河鹿笛
帯広市 柏木 七歩

梅雨晴間鯉節小屋の薄煙
伊勢市 奥田 豊

荒梅雨や飯場の棚のマンガ本
志木市 谷村 康志

藤椅子や休暇の父の葉巻の香
鎌倉市 保坂たつき

黒谷の和紙の行灯夏の月
福知山市 杉森 大介

茄子を漬けつつかなき日の昏れむと
す 秦野市 安藤 泰彦

蜻蛉や那須野ヶ原を競ひ飛ぶ
東京 東 賢三郎

紫陽花や未来の色を見せ初むる
青森市 小山内豊彦

夕焼に染まる戸の湖ひきしまる
龍ヶ崎 小宮 光司

大夕立鍵屋ノ辻を丸洗ひ
伊賀市 福沢 義男

かなぶんの人差し指を這ひにけり
浜松市 久野 茂樹

斜里岳はアイヌの呼び名花さびた
上尾市 山口 流離

宿直に一升瓶と蜚龍
霧島市 秋野 三步

早苗響やたつぷり田植機に油
西海市 まえだいっそう

字二つ分かつ大川男梅雨
千葉市 畠山さとし

調べの鼓動

船乗りは風に敏感だ。他にも、日本海側で夏に吹く風である「あいの風」、秋に雁が日本へ渡ってくる時に吹く風である「雁渡り」などは、漁師や船乗りの用語が季節になったものだ。特定の季節に吹く風が季節になる例は多い。

ペルーの漁師は海と共に暮らし、エルニーニョを発見したのだと思うが、世界全体の気象現象につながっていると思えば、気づかなかったと思う。そう考えると、日々触れている日本の季節たちも、地球規模の気象現象の一部なのかもしれない。(ほしの・たかし)俳人

伊藤 一彦 選

朝光にほどけて眠るみどりごのいかさうめん
のやうな指先 武蔵野市 谷口 菜月

△評△上の句も巧みだが、下の句の実感から生まれた「いかさうめん」の比喩が面白い。わが子へのいとしさがあふれている作。

椅子の上だらりと垂れしチノパンのあなたは
今日も面接にゆく 前橋市 栗山ミユウ

△評△チノパンを脱いで面接にスーツで出かけているのだ。チノパンの描写が絶妙。

右手にも右手自身の自我があり だから時々
手を滑らせる 東京 安 高良

絶対に嘘は吐かないそんなこと出来もせぬの
に言ふ政治家も 筑紫野市 二宮 正博

嘘いば途端みんなに叩かれる普段目立たぬ
正直な俺 大阪市 吉田 昌之

政治家は損壊罪を違憲だとせぬと判事を警め
切っている 京都市 寺西 和史

下の歯に挟まり続けるモロコシの執念深さがわ
たしに足りない さいたま市 シェルマ恵理

今日のこときつく縛った髪留めを放つがごと
く白紙に書けり 高岡市 増澤 千佳

AIがつけた戒名と知らぬまま祖父は遺影の
なかではにかむ 松戸市 小林 里純

自炊していると嘘つくも母の目はみなお見通し
傷なきまな板 西宮市 鎌田 佳代

米川千嘉子 選

今風が出て来て地熱を鎮めてる五目ちらしの
大葉が香る 三重 中山由賀子

△評△夕方、これから家族が集まるのだろ
うか。昼間の暑さが収まってきて、やっと人間らしい、懐かしい夏が訪れる。

縫ひぐるみ伴ふ学生食堂はアジ演説も立て看
も過去 武蔵野市 三井 一夫

△評△作者の時代とは激変したキャンパス
の風景。縫ひぐるみにもたぶん必然が。

ドアホンを押して目の合ふアガパンサスの花
「留守ですよ」 新潟市 斎藤 斌

△大学生急募！△の時給にあこがれるわが青
春はこれからののか 四日市市 早川 和博

とりあえず生で乾杯するように与党を演ぶシ
ルバー政治 始良市 井之川健児

靴底を減らした親父いま視力落とす息子も刑
事の家系 西海市 まえだいっさき

点滴をしるるナースに聞き合う喋りたき
われそを止めるわれ 熊野市 鈴木 圭子

半夏生に新しうがとたこ飯を炊くモーリ
タニアに感謝しながら 京都市 日下部ほのの

半分こする夫なくて今日もまたモロコシ一本
食べてしまえり 大阪市 森川 慶子

ウォーキングに励みしシューズ脱ぎ置きて
草鞋に替えた母見送りぬ 大仙市 佐々木律成

加藤 治郎 選

さくらんぼ一つはあなた一つは私ずっとこの
まま繋がっている 岐阜市 山上 秋恵

△評△さくらんぼの房にあなたの実と私の
実が付いている。下句は濃い情念である。

57777という形式がユニークだ。

星と星と星と星と星とあなたをつないで焼い
たパンケーキ座 大野城市 野分 のわ

△評△空の五つの星とあなたが立体的でダ
イナミックだ。童話のようで楽しい。

敷金礼金無AL付BT別伝説の木有
豊橋市 氏原 維持

おにぎりをぎゅっと握ってこの夜から抜け出
す術を考えている 名古屋 初夏みどり

六月の顔をしたまま七月のまひるまにいろ
雨音を詠む 津市 川原田明子

君という海を泳いでいるときも抗うつ葉はこ
の身を巡る 横濱市 あ や

深夜よりなみだであつた紅茶をいれたならさ
よならの支度 ばいばい 厚木市 展翅 零

暗闇を支配している秒針は何かを言いたそう
にも見えた 四万十市 佐竹 紫円

待つひとをかならず拾う市営バスどんなヒー
ローよりもやさしく 岐阜 舟橋 いま

点と点と点と点と点と点と点と点と点と点と
む「てん」 豊中市 根尾 寛

水原 紫苑 選

海難のこわさ伝える言葉たち新聞にまだイン
クのおい 横濱市 大原 香花

△評△現実でもあり、抽象でもある「イン
クのおい」が、新聞の生の本質である「言
葉たち」を呼び起こす。

会ったための自転車キスをするための公転車別
名観覧車 熊本市 夏風かをる

△評△「自転」と「公転」の二つの車。捨
て身のユーモアがすがすがしい。

キャンパスの積み葉 檸檬 唇へうつくしい
相似が渡される 宝塚市 白川 樓瑠

建物のかたちに通って伸びる蔓 だれかの意
思はわたしの意思に 大阪 中村 杏

売店で買ったストラップのイルカにもあるよ心
臓のやさしいスイッチ 安城市 唐澤 うに

決着つかずついてはならぬライバルの紫式部
清少納言 甲府市 村田 一広

洗礼の水へ面を浸しつつ胎へと帰る夢をみて
いる 東京 境 千尋

鳩尾を知らずに生きてきた君は青いセロリの
匂いをさせて 名古屋 屋 河

追いつけぬ季節がありて通り雨いつまでも枯
れぬ花の名前は 町田市 古井 朔

少年は三面鏡の海へ行く身を解き放つような
瞳で 岡山市 松井 度

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051 (住所不要) 毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生 (希望選者名) 係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(https://mainichi.jp/kadan-haidan/)でも受け付けています。

7月14日の俳壇「夜行バス降りて洗顔明易し」は、同じ作品が過去にあるため入選を取り消します。



こちらから投稿できます